やまゆり

学校だより

令和6年3月21日
99号
学校長　杉本賢二

校　　訓　「和の心」
学校教育目標　「社会に貢献しながら自立する生徒の育成」－気づき・考え・実行する－
校内研究重点　「個別最適な学びと協働的な学びで、主体的に学習する生徒を育成する」

学校教育目標　「居心地良く、やる気のある学級づくり」　「豊かな心の育成」

「碑」から身近な平和づくりを学ぶ

3年生の修学旅行3日目は、**広島での学習**でした。広島駅から平和公園までタクシーで移動し、**原爆ドーム**と**学徒動員慰霊碑**、**嵐の中の母子像**から学び、宿舎に到着しました。

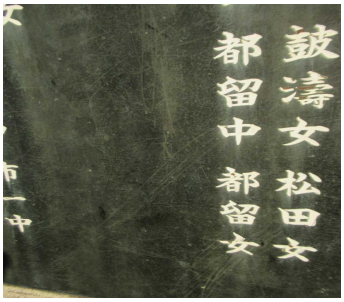
原爆ドーム　（核兵器廃絶のシンボル）

・1996年12月、ユネスコが世界遺産に登録「広島県産業奨励館」の名称

・上空600mで原爆がさく裂し、30名全員死亡

・原爆は、「熱線・爆風・放射能」の3つの威力

・街の復興と共に解体の危機があったが、1966年に広島市議会で「亡くなられた20万人以上の霊や世界平和のために永久保存が決議」された。工事費の1、5倍の寄付が寄せられた。20年後も2億円の募金目標に対して4億円以上の寄付が寄せられた。



学徒動員慰霊碑

・小学校高学年・中学生・高校生等が建物を火事の被害から守るために壊したり、軍需工場等で働きながら原爆で亡くなった。その魂を慰霊するための碑。

・現在の**「都留高校」**も刻銘

嵐の中の母子像

・原爆の嵐の中でわが子を守る母親の姿を描いた像で広島の惨劇を表現

・胸に乳飲み子を抱きかかえ、背にもう一人の子供を背負って立ち上がろうとする母子の必死の姿。惨劇の中でも生きようとする命の尊厳を表現し、また、親子二代の悲劇も伝えている。

※小さなブロンズ像を広島市婦人会が募金で建造

平野さんの「被爆体験」を身近な平和づくりに生かす

平野貞男さん91歳。**12歳（中学1年生で被爆）**やけどを負いながら痛さや辛さに耐えた人生だったこと。被爆者の苦しみと原爆の悲惨さと共に、どのように考えて生きてきたかを証言しました。

- ○ **争いをしないこと**　我慢・忍耐・それでもだめなら逃げる　時間が解決してくれる
- ○ **真面目に正しく**生きる事が大切　人間の欲が多くの争いごとの原因になる
- ○ **質素に生活**する　限りある資源を大切にする
- ○ **生きる事をあきらめない**　自ら命を絶つことは絶対にしてはならない
- ○ 人生は思い通りにならず良い事もあまりない。しかし、**小さな希望をもって生きる**
- ○ 以上のことを大事に生きれば、**道は自然に開かれていく**

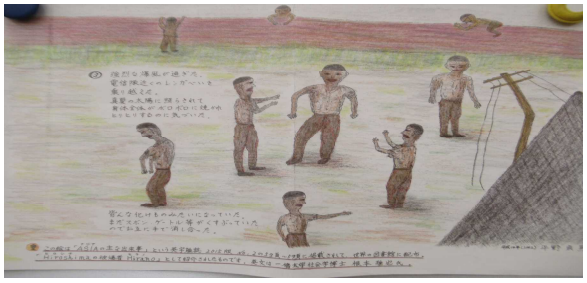
被爆後　皮膚が焼けて両手を挙げて歩いている人が多かった　真剣に聞く生徒の様子

原爆の**熱線**で焼かれる平野さん

原爆投下10秒後　**爆風**で校舎が浮き上がった

熱で服が燃えた　みな**化け物**のようだった

比治山の防空壕　**多くの方が間もなく亡くなった**



積極的に質問する脩大さん

お礼のことば　佳太さん

花束贈呈　圭胡さん

「身近な平和を創る」ための話合い

平野さんの被爆証言を聞いた後で、3日目の夜に**「身近な平和を創る」ための話し合い**をしました。一人一人が主体的に発言し、**生徒同士の関係はとても良くなっていました。みんなで心を一つに協力してより良い学級、学校を3年生として創造する活動**でした。特に、「決まり」をどのように考え判断し、行動していくかについて意見をつなぎ、**心に残る話し合いを創る**ことができました。

司会を高村先生が務め「決まり」や「下級生への配慮」等について協議しました

3名の引率の先生方も、話の内容や生徒の成長について思いを込めた話をしてくれました

中山 明憲先生

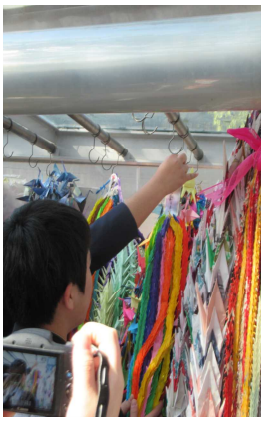
外川 真夢先生

宮本 美鈴先生

「平和集会・平和宣言」をしました

3月16日の最終日、原爆の子の像の前で平和集会・平和宣言をしました

原爆の子の像の前で清掃活動

原爆ドームをバックに記念撮影

折鶴の奉納